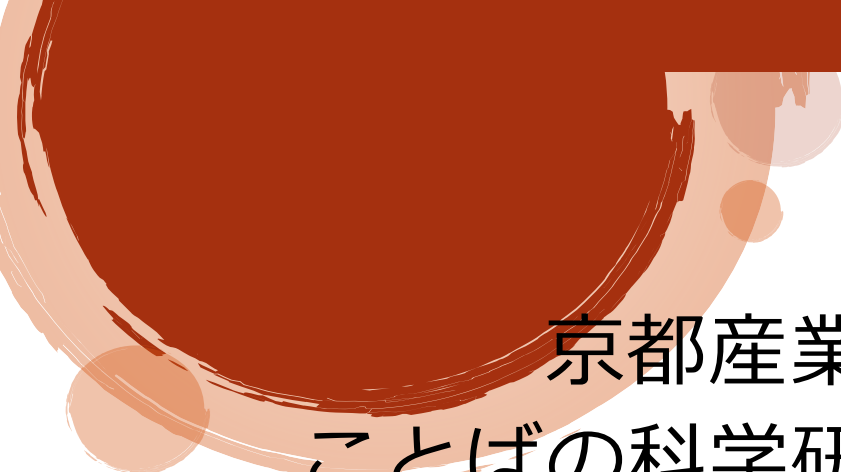




京都産業大学 ことばの科学研究センター 2024 年度第 4 回研究会

日時：2024 年 11 月 27 日（水）14:00～16:00

場所：4 号館 2 階 総合学術研究所

『カラマーゾフの兄弟』におけるサクランボのジャム

木寺律子（外国語学部准教授）

F.M.ドストエフスキー（1821-1881）の晩年の大作長編小説『カラマーゾフの兄弟』（1880）は大変有名な作品であるが、作品の細部には、読者に未だ気づかれなかった様々な問題が多く隠れている。アリョーシャ、イヴァン、ゾシマ長老と関わるサクランボのジャムもその一つである。この作品にほかにも料理や食べ物の描写が多く登場するが、これをキリスト教の精進や世俗の問題によって解釈しつつ、一見深刻で深遠に感じられるドストエフスキーの思想のコミカルな側面にも言及する。

ドイツ語「オノマトペ」表現の諸相：

個別言語の視点と言語類型論の視点からの考察

島憲男（ことばの科学研究センター員・外国語学部教授）

発表者はこれまで宮沢賢治作品のドイツ語訳を中心に日本語を原典とする作品に生起する擬音語・擬態語表現がどのようにドイツ語に翻訳されているかを分析してきた。本発表では、Talmy (1985, 2000, 2007), 乙政 (2009), Malchukov/Moravcsik (2024) 等の研究成果を援用し文中に生起したドイツ語の様々なオノマトペ表現がどのように分析できるかを検討していきたい。

